



喜多方市小田付の家跡  
生誕地は、熱塩山形屋



喜多方市(北方から喜  
多方となるのは明治4  
年)岩月の裁縫所跡



会津若松市日新  
町の病院跡



熱塩温泉  
示現寺の墓



東京浅草、浅草寺。明治34  
年建立、日本最初の女性銅  
像、題字は洪沢栄一

# 日本最初のナイチンゲール

## 瓜生岩子

文政九年(一八二六)北方(現喜多方)小田付の油屋、渡辺利左衛門と岩子の母瓜生りえが結婚します。文政十二年(一八二九)二月十五日、母の実家、熱塩の瓜生家(山形屋)で岩が誕生、戸籍上は小田付となります。

天保八年(一八三七)九歳、父が死去。十五日後、家が分家らにより放火され焼失。母とともに熱塩(山形屋)へ帰り、二度と戻らなかつたという。天保十三年(一八四二)十四歳、母とともに喜多方の上三宮出身、叔父の医師山内春瓏のもとで若松の大町(現石堂園)において修業。叔父は安政二年(一八五四)に死去。

弘化二年(一八四五)十七歳で会津美里町竹原出身の佐瀬茂助と結婚。若松横三日町(会津若松市宮町)に呉服店「松葉屋」を開く。おつね、祐三、とよ子、留子の一男三女を生む。安政三年(一八五六)夫茂助が病氣となり、さらに番頭が近所の女性とともに呉服と金を持逃げされます。文久二年(一八六二)三十四歳、夫が死去、翌年母が死去。子のつね子は、若松城内の照姫様に奉公。祐三は西郷勇左衛門の小姓となります。店は他人に譲り熱塩へ戻ります。瓜生家菩提寺の示現寺に行くと隆覚禪師から

「世の中にはお前以上に不幸せな人は大勢いる。お前のこれからの一切を、もっと不幸な人のためにささげなさい。情けの全てをかけなさい。お前は他人の喜びを自分の喜びとすることができる人だ」と諭されます。会津戦争(一八六八年)八月二十三日、四十歳、塩川で桑名公とすれ違い、湯と水、炊き出しの世話をします。若松神指の高久へ行くと娘子隊の話聞き、その宿所に行き、萱野権兵衛よりここは危ないので坂下から北方に避難するよう言われます。北方では、戦

争で避難した婦女子を家に受入れ、日本で最初に敵味方の区別なく看護をしました。また、白虎隊士で生き残った飯沼貞吉の話の聞くと岩月の沼尻に見舞いに行きました。明治二年(一八六九)北方岩月の稲村に藩士のために「日新館」の教育をしようとして「小田付幼学校」を建て、会津藩士で岩月に疎開していた佐川又二郎(官兵衛の伯父)も協力します。明治四年、四十三歳、幼学校を閉鎖し、東京深川の救養会所に行きます。(浅草銅像の由縁)

明治五年。喜多方小田付に帰り、岩崎村長福寺に救養会所の分所を設立、女性自立のため墮胎防止や裁縫を教えます。明治十三年(一八六九)女性の地位向上に尽くした功績により、福島県令山吉盛典、十五年に三島通庸から賞与を受けます。明治二十年(一八八七)五十九歳、福島渡、長楽寺脇の長屋へ移ります。明治二十一年(一八八八)磐梯山大噴火では、救護活動をします。明治二十四年(一八九一)六十三歳、東京養育院長の洪沢栄一から幼童世話係長に頼まれ八カ月勤務します。明治二十六年(一八九三)六十五歳、済生病院を若松に設けます。翌年第一回帝国議会に女性最初の請願「婦女慈善記草の制」提出します。明治二十九年(一八九六)六十八歳で女性最初の藍綬褒章を皇居で受章(通訳は山川操)します。明治三十年(一八九七)四月十九日、六十九歳で福島にて死去。二日前には、昭憲皇太后(明治天皇夫人)が見舞いに来ています。亡くなる二日前の四月十七日の歌は「老いの身のながからざりし 命をも たすけたまへる 慈悲のふかさよ」